

【昭和38年1月豪雪】 昭和38（1963）年1月2日から31日にかけての大雪、雪崩

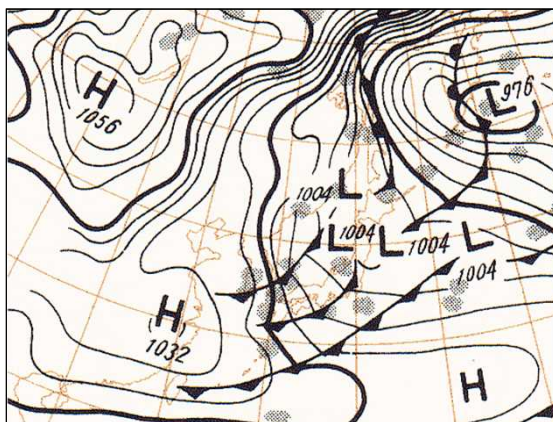
日本海で前線や低気圧が繰り返し発生、通過
～大雪、雪崩による人的被害や建物の倒壊、中越の都市機能の麻痺～

【概要】

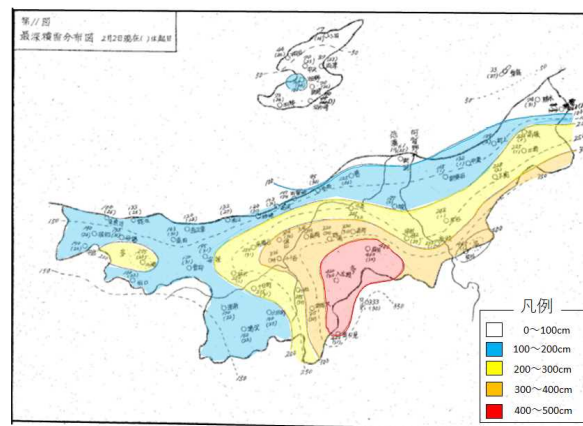
昭和38（1963）年の1月2日から31日にかけて、北陸地方を中心に東北地方から九州にかけての広い範囲で降雪が持続した。冬型の気圧配置が続く中、前線や小低気圧が日本海で発生して通過したため、平野部での降雪が多くなった。新潟県でもこの間に何度か大雪となったが、特に1月16日から31日にかけては、前線や低気圧が通過するたびに降雪が強まり、中越を中心に平野部でも大雪となり、長岡※では1月30日に最深積雪318cmを観測した。

この大雪の影響により、新潟県内では、雪崩による家屋倒壊で7人が亡くなるなど10人が死亡し、中越を中心に住宅、工場等の倒壊が相次いだ。また、鉄道や国道等の交通途絶の影響により、中越の産業都市機能が麻痺状態となった。（被害概要は新潟地方気象台異常気象概報より）

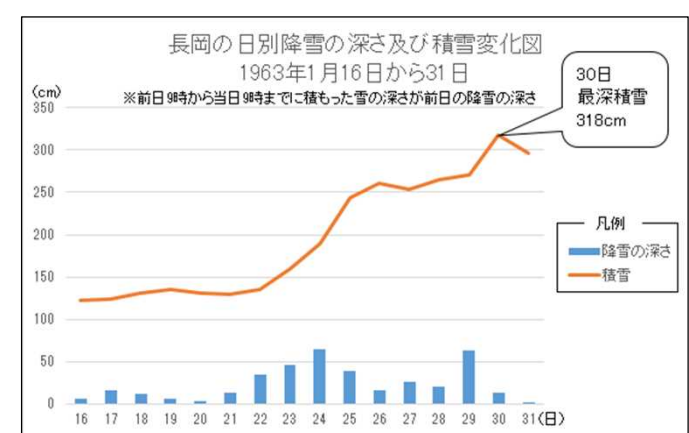
※ 長岡通報所（昭和31年（1956年）から昭和53年（1978年）設置）の最深積雪値であり、現在の長岡地域気象観測所の極値順位と異なる。



地上天気図 1963年1月23日9時



最深積雪分布図
1963年1月2日から2月2日まで



長岡の日別降雪の深さ及び積雪変化図
1963年1月16日から31日